

おあしす

ニジェールの家族と暮らし

降雨量によって規定される生態ゾーンに応じて農耕民や牧畜民が暮らし、多様な民族文化がみられます。



母親が結納品として準備してくれたお皿とハウサの新婚女性。



遊牧生活を営むトゥアレグの家族。雨季のあいだはサハラで家畜を放牧し、乾季になるとサヘルに南下します。



ハウサの農村における大家族での食事。



ラクダに乗って移動するアラブの父子。



父親が見守る娘の食事準備（牧畜民フルベ）。

(写真提供 大山修一)

日本沙漠学会 2020 年 第 31 回学術大会開催のお知らせ

1. 大会概要

日 時：2020 年 5 月 30 日（土）午後～31 日（日）夕方

場 所：岡山大学 津島キャンパス

〒 700-8530 岡山県岡山市北区津島中 1-1-1

アクセス http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

* 1 日目が午後からの開催、2 日目が夕方までの開催となっております。開始時刻および終了時刻が例年と異なりますのでご注意ください。

2. 研究発表申し込み

発表申し込み締め切り：2020 年 3 月 1 日（日）必着

発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとします。なお、申込者数・会場スペースの都合により、調整させていただく事がありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表は、プロジェクターによる PC ファイル (PDF, ppt 等) での発表となります。

申し込みは、締め切り日までに E-mail または郵送（期日必着）で、以下の様式にそって必要事項を記入の上、実行委員会事務局へお送りください。申し込まれた方には、講演要旨の様式・発表時間等をお知らせします。

発表要旨締め切り：2020 年 3 月 25 日（水）必着

3. 参加申し込み

参加申し込み締め切り：2020 年 5 月 15 日（金）必着

3 月発行予定の学会誌（29 巻 4 号）同封のがきにて、会員の方すべてがご回答ください。ご欠席の場合でも総会成立のためには委任状が必要となります。またご出席の場合には事前登録扱いになり参加費が割引になります。

4. 公開シンポジウム

「乾燥地における植物の生理生態と緑化」

2020 年 5 月 31 日（日）、午後、会場：岡山大学

基調講演：乾燥地における持続可能な緑化に向けて 山中典和（鳥取大学乾燥地研究センター）

講演 1 依田清胤（石巻専修大学）

講演 2 橘 隆一（東京農業大学）

講演 3 岩永史子（鳥取大学）

講演 4 三木直子（岡山大学）

5. エクスカーション

本大会では日程の都合上、エクスカーションはありません。

6. 問い合わせ・研究発表申し込み先

第 31 回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

〒 700-8530 岡山県岡山市北区津島中 1-1-1

岡山大学農学部 三木直子

TEL：086-251-8377 E-mail：jaals2020@okayama-u.ac.jp

[委員長] 三木直子（岡山大学）

詳細はホームページ <https://www.jaals.net/> をご覧ください。

----- 研究発表申し込み様式（下記の項目に従ってご記入下さい）-----

1. 発表種別：（口頭 or ポスター）
2. 題目（和文）：
3. 題目（英文）：
4. 発表者氏名： ※なお、登壇者は 2019 年度学会員であることを要します。
5. 発表者所属：
6. 概 要：（和文 200 字）
7. 連絡先：（氏名、住所及び TEL/FAX 番号、E-mail アドレス等連絡方法）
8. ポスター発表の希望者で、発表者が下記ベストポスター賞の対象者としての条件を満たす場合は、審査の対象分野（理系 or 複合系）を記載してください。

日本沙漠学会 2020 年 第 31 回学術大会におけるベストポスター賞について

日本沙漠学会では、学術大会においてポスター発表をする若手会員を対象に、内規第 11 条に基づいてベストポスター賞を設けています。若手会員は、ぜひチャレンジしてください。なおベストポスター賞の授賞式は、学術大会の閉会式にて執り行う予定です。

第 11 条 学術大会ベストポスター賞に関する内規（抜粋）

- (2) 受賞候補者は原則として、当該年度において満 35 歳以下の発表者とし学部生、大学院生と大学院修了・中退後 3 年未満の者などとする。なお受賞候補者は、会員で、かつポスターの説明者とし、第一著者でなくてもよい。さらに、当該年度において 36 歳以上の会員が受賞候補者としての選考を希望する場合には、その理由書を学会賞審査委員会（以下、審査委員会）（幹事）宛に郵送してなければならない。
- (3) 対象分野
本賞の対象分野は理系、複合系からそれぞれ 1 件を選出する。選考対象の発表がない場合は該当なしとする。なお、受賞候補該当者は、発表申込時に、どの系での審査を希望するか明記することとする。
- (4) 審査方法
 - ・採点者は、以下の 2 項目について採点する。
 - a. 研究内容（目的・意義、研究方法、結果・考察、成果、発展性など）
 - b. ポスター表現とポスターを用いての説明技術、熱意など

問い合わせ先：

日本沙漠学会 総務委員／学会賞審査委員 E-mail : jaals@kyouritsu-online.co.jp

日本沙漠学会 2020～2022 年度評議員の選挙について（会告）

2019 年 12 月 4 日

日本沙漠学会 正会員・名誉会員 各位

日本沙漠学会選挙管理委員会
委員長 鈴木 伸治

11 月 29 日締切による新規評議員候補者の推薦について、5 名の候補者が確定いたしましたので、日本沙漠学会会則および内規に従い、2020～2022 年度評議員の選挙を下記要領にて実施いたします。正会員および名誉会員各位のご投票をお願い申し上げます。

記

1. 選挙人の資格：日本沙漠学会正会員および名誉会員
2. 被選挙人：下記に掲げる、現評議員（30 名）ならびに新規被推薦者（5 名）の計 35 名
3. 選挙方法：
 - 1) 本会告に同封の投票用紙を用いること。
 - 2) 候補者氏名から 25 名以内を選び、右欄に○印を付す。
※ 25 名を越えると、すべての投票が無効になります。
 - 3) 投票用紙を同封の封筒（内封筒）に入れ糊付けする。この封筒には何も記載しない。
投票用紙を封入した内封筒を、返信用封筒に入れて返送する。
4. 投票締切日：2020 年 1 月 13 日（月）（当日消印有効）
5. 郵送先：〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科
日本沙漠学会選挙管理委員会 真田篤史 宛
6. 開票日：2020 年 1 月 16 日（木）18：30～
7. 開票所：東京農業大学 世田谷キャンパス 7 号館 2 階 生産環境工学科会議室
<https://www.nodai.ac.jp/campus/map/setagaya/>
開票立会希望者は、選挙管理委員会（a3sanada@nodai.ac.jp）まで事前にお申し出下さい。

[2020～2022 年度 評議員候補者]

安部 豊*	石川祐一	入江光輝*	今村 薫	岩本 彰	牛木久雄
小長谷有紀	川端良子	北村義信	窪田順平	小島紀徳	児玉香菜子
酒井裕司	真田篤史*	篠原 卓*	島田沢彦	白石雅美	菅沼秀樹
鈴木伸治	高橋新平	田島 淳	橋 隆一	豊田裕道	中村 徹
縄田浩志	平田昌弘	藤巻晴行	的場泰信	三木直子	森尾貴広
矢沢勇樹	吉川 賢	依田清胤*	渡邊文雄	渡邊三津子	

(* 新規候補者)

※選挙は終了いたしました。記録のため掲載いたします。選挙結果は学会 HP をご覧ください。

「沙漠研究」誌への展望論文、講座・解説への寄稿のお願い

日本沙漠学会編集委員会では、「沙漠研究」誌を会員の皆様の間での研究の情報・成果の共有を通じた交流をより一層進めるために、展望論文のご寄稿を広く募集いたします。

沙漠に関する研究のみならず、あらゆる研究において分野横断・融合型のアプローチが多く進められており、これまで参入したことがない分野の研究者が研究に加わることも珍しくなくなっています。その際に、当該研究分野の歴史の変遷、押さえておくべき研究成果、「どこまでわかって」、「どこまでわかっていないのか」、さらに「どこを目指しているのか」を専門外の会員にも理解できるように簡潔にまとめたレビューは、新規参入やこれから研究を始めようとする学生や若手研究者にとって大きな道しるべとなります。特に研究歴の長い会員の皆様のご投稿をお待ち申し上げます。

さらに、若手・中堅のキャリアにある会員の皆様におかれましても、展望論文をご自身の研究のポートフォリオとしてご活用いただき、研究を進展させる際のパートナーやポジションの獲得にお役立てください。

皆様のご投稿を心からお待ちしております。

日本沙漠学会編集委員会

学会事務局からのお知らせ ～登録Eメールアドレスをご確認ください～

日本沙漠学会では、会員の皆様への迅速な情報発信を目指し、学会誌「沙漠研究」に併せ、学会HP (<http://www.jaals.net/>) およびEメールにてご連絡を差し上げております。とくにEメールでは、2019年10月24日、2019年12月25日、および2020年1月6日に、会員名簿に登録されているEメールアドレス宛のご連絡を差し上げました。ところが、複数の会員の方々に連絡が届いておりません。上記の日付で学会からのEメールがお手元に届いていない場合は、お手数をおかけいたしますが、Eメールアドレスを学会事務局宛 (jaals@kyouritsu-online.co.jp) にご連絡くださいますよう、お願いいたします。なお今後も、学会からのお知らせをEメールにてご連絡させていただくことがありますことをご了承いただければ幸いです。

日本沙漠学会事務局

2019 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い（再掲）

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 吉川 賢
学会賞審査委員会委員長 豊田裕道

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

2. 推薦期限 2020 年 2 月 29 日（土） 当日消印有効

3. 推薦方法 以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお，推薦には「自薦」は含まれません。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合
様式 1 の推薦書 1 部
推薦に関する資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合
様式 2 の推薦書 1 部
推薦に関する業績 1 組

4. 宛先（照会先）

日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 渡邊 三津子

E-mail : watanabe.m415@gmail.com

5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ（<http://www.jaals.net/>）をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

著者名（共著の場合は全員）、題目、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載すること。

-----記入上の注意-----

- 1) 書 式 A4 縦置横書き、明朝体 12 ポイント、上下左右マージン 2.0 cm 以上、1 行文字数 35～40 字、1 ページ行数 35～40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料はコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 業績リストは研究業績の別刷り（コピー可）を添付して下さい。

学会賞審査委員会からのお知らせ 日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事 豊田 裕道
渡邊 三津子

日本沙漠学会では「奨励賞」「ベストポスター賞」など、若手研究者のみなさんを対象とした賞を設けています。

奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。
※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後3年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に書くことができるので、就職活動にも役立ちます。

日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ
沙漠研究に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員/E-mail : jaals@kyouritsu-online.co.jp

1st circular of The DT XIV International Conference on Arid Land

Sponsored by The Japanese Association for Arid Land Studies (JAALS)

(HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaals/>)

Date: 8-11 September 2020

Place: Multiple Hall of Matsuzaki Town

(301-1, Miyauchi, Matsuzaki Town, Kamo District, Shizuoka, 410-3696, JAPAN)

Invitation

13 “Desert Technology” conferences from 1990 and 3 “International Conference on Arid Land” since 2011 have been held. Now they have been combined to be The DT XIV, International Conference on Arid Land. From this conference, changed the name to The DT XIV International Conference on Arid Land.

They addressed:

- the natural characteristics of arid areas and desertified areas (e.g. climate, hydrology, and vegetation),
- the mechanism of the desertification, and prevention methods.
- The human sciences towards overcoming constraints of arid land.

The conferences have been a great source of learning for researchers from the relevant countries who contributed their knowledge, technology and participated in the very productive working groups.

However, the issues of desertification still remain a global concern, requiring continued and expanding research to negate the consequences. The previous conferences have often focused on technological aspects of desertification in arid regions. Based on previous experiences and accomplishments, we offer an opportunity to participate in the comprehensive discussions, the presentation of research projects including natural, technological, and human sciences towards overcoming constraints of desertification.

The conference welcomes researchers associated with deserts and arid regions with diverse aspects of arid science, including natural science and the humanities.

Program

Conference Topics

- Desert energy
- Stress biology & desert agriculture
- Soil and water technologies combating desertification
- Human and social sciences on Deserts; economy, society, culture and history
- Other related topics.

Tentative schedule

8th Sept.-- Transportation to Hotel/ Welcome reception at Hotel

9th Sept.-- Opening/ Academic Sessions at Conference hall/ IDC meeting

10th Sept.-- Academic Sessions at Conference hall/ Gala dinner at Hotel

11th Sept.-- Academic Sessions/ Way back to Tokyo

Call for Papers

Submission of abstract: 15 March 2020

(Title, author name (s) in full spelling with affiliation (s), 300-400 words abstract in English, and contact person's name with e-mail address)

Notification of acceptance: 15 May 2020

Early registration deadline: 15 June 2020

Registration deadline: 31 July 2020

Manuscript submission deadline: 15 August 2020

(The official conference language is English.)

Organizations:

Conference chairperson: Yoshiko Kawabata

Co-chairperson: Ken Yoshikawa, Fumio Watanabe, Takahiro Morio

1. International Advisory Committee: International desert Council (IDC)

Chair of IDC : K. Yoshikawa (Japan)

B. Payne (USA), F. Watanabe (Japan), H. A. El-Shemy (Egypt), H. S. Gehlot (India), K. Toderich (Uzbekistan), H. Toyoda (Japan), M. Abu-Zreig (Jordan), R. Harper (Australia), S. Kumar (India), S. Shimada (Japan), S. Sinha (India), S. Suzuki (Japan), T. Davis (USA), T. Kojima (Japan), T. Morio (Japan), Y. Abe (Japan), Y. Kawabata (Japan), Y. Sakai (Japan),
(alphabetical order)

2. Local Organizing Committee

A. Iwamoto (Oriental Consultants Global Co., Ltd), H. Fujimaki (Tottori Univ.), H. Nawata (Akita Univ.), H. Saito (Tokyo Univ. of Agri. & Tech.), H. Suganuma (Tokyo Univ. of Tech.), H. Ushiki, J. Kubota (Natl. Inst. of Humanities), J. Tajima (Tokyo Univ. of Agri.), K. Imamura (Nagoya Gakuin Univ.), K. Kodama (Chiba Univ.), M. Hirata (Obihiro Univ. of Agri. & Vet. Med.), M. Shiraishi, M. Watanabe (Motoko Katakura Foundation for Desert Culture), N. Miki (Okayama Univ.), N. Yamanaka (Tottori Univ.), R. Tachibana (Tokyo Univ. of Agri.), S. Takahashi (Tokyo Univ. of Agri.), T. Nakamura (Univ. of Tsukuba), T. Saito (Tottori Univ.), T. Tanaka (SBI Pharmaceuticals Co., Ltd.), Y. Ishikawa (Akita Pref. Univ.), Y. Kitamura (Tottori Univ.), Y. Konagaya (JSPS), Y. Yazawa (Chiba Inst. Tech.)
(alphabetical order)

3. Contact

FAX: +81-(0)42-367-5735

E-Mail: dt14ical@gmail.com

4. Others

The papers presented in the conference will be published in The Journal of Arid Land Studies after critical peer review process.

寄贈図書のご紹介 「ラオス SRI 稲作普及事業 11 年の軌跡」

NPO 法人プロネット 21 様 (代表理事 的場泰信氏, 日本沙漠学会評議員) より, 表題の事業報告書が寄贈されました。SRI とは, System of Rice Intensification の略で 1983 年マダガスカルで開発された稲作の栽培方法です。種籾, 化学肥料, 農薬, 水を減らして収量を増やす移植方式による栽培方法で, 移植する苗の幼齢, 田植えの方法, 灌漑方法が通常の稲作栽培で採られている方法とは異なっています。多くの開発途上国で注目され, 世界銀行, アジア開発銀行等の国際機関も支援している方法です。

ラオスでは, 国際 NGO が SRI の普及を目指して 2001 年に試験栽培を行いました。また, 国内の試験研究機関も試みたものの成果が得られず, 結果としてラオスでの普及可能性は低いと結論づけられていました。こうした状況にもかかわらず, プロネット 21 はラオス農林省と共同で 2006 年に試験栽培を行い, SRI の普及に努め成果を挙げました。この結果, 農林省は SRI 普及活動の促進政策を掲げました。2007 年からは, JICA (国際協力機構) の草の根技術協力の支援を受けて, プロネット 21 によるルアンプラバン県での SRI 普及事業がフェーズ I (3 年), フェーズ II (2.5 年), フェーズ III (5 年) に分けて実施され, 計 11 年間ラオスでの SRI 栽培普及に協力してきました。

本報告書の内容は, ラオスでの SRI 普及の経緯, フェーズ I からフェーズ III までの事業概要, 実績, 評価, 完了報告, SRI の技術ガイドラインまで詳細に記録されており, 農業普及事業に関わる人々には大いに参考になる報告書です。特にルアンプラバン県当局の積極的支援, 普及員の活動, 極めて多数の農家の参加, 生産量の向上, プロネット 21 の適切な人員計画等が PDM (Project Design Matrix) を駆使して述べられています。フェーズ III では, 複合農業の一環としてリボルビングファンドの導入など, 農業プロジェクトでは極めて難しいとされる事業も導入され成功しています。

乾燥地農業プロジェクトでは対象作物が異なるとはいえ, 試験研究効果の展示, 農家の協力, 技術の普及, 事業の継続等, 解決しなければならない課題が多いなか, 本報告書はこうした業務に携わる人達にとって必携の参考資料として役立つと思われます。本報告書を希望する方々は日本沙漠学会事務局までご連絡ください。

日本沙漠学会事務局



学会記事

日本沙漠学会第 142 回理事会 議事録

日時：2019 年 10 月 26 日（土）14：30～17：00

場所：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
事務室

出席：吉川 賢（会長），森尾貴広，渡邊文雄（以上，
副会長），小島紀徳，鈴木伸治，田中 徹，
中村 徹（以上，理事），的場泰信，齋藤哲司
（以上，オブザーバー）

委任状：窪田順平，小長谷有紀，酒井裕司，島田沢彦，
高橋新平，豊田裕道，矢沢勇樹，渡邊三津子

I. 審議事項

1. 財務について

- ・学会誌「沙漠研究」の冊子体発行号数縮小について，学会 HP 上での意見募集をもとに会員からも賛同が得られたことを確認した。今後，具体化を進める。
- ・学会を受け皿とした共同研究等の促進について，検討を継続中であることが報告された。
- ・DTXII に関する交渉後の費用について，入金予定時期を確認した。
- ・理事会での旅費についての条件を確認した。
- ・3 年以上会費が未納だった 46 名の会員（正会員 38 名，学生会員 8 名）について，督促を繰り返したものの，会費の納入がなかったため，2019 年 10 月末日を以って退会処理をすることとした。

2. 学会会員数減少への対策

- ・講座や解説，展望論文への寄稿を呼び掛けることについて検討した。
- ・Web 上のサービスを利用して，海外で研究活動する会員やその活動内容を紹介することについて検討した。
- ・留学希望者の情報を共有してみてもとの意見があった。

3. 他学会でのセッションの共催

- ・JpGU - AGU Joint Meeting 2020（2020/5/24～28）について，共催セッションの提案があり，承認した。学協会プログラム委員は黒崎風送ダスト研究会長が担当する（2019/10/16 メール審議済）。

II. 報告事項

- 2020 年度第 31 回学術大会（2020/5/30～5/31，岡山大学）進捗
 - ・第一報が学会 HP 上に掲載された。おあしすでもアナウンスする。
- 投稿論文審査状況報告
 - ・投稿論文審査状況とレビュー論文の依頼の進捗，および沙漠研究 29 巻 2 号の刊行と 3 号の編集の進捗について報告があった。
- 創立 30 年記念事業
 - ・「沙漠学事典」の編集状況，レビュー論文（報告事項 2.），学会 HP に掲載されていない「沙漠研究」のバックナンバーの PDF 化について進捗が報告された。また英文書籍の出版について検討中である。
- 2019 年秋季シンポジウム（2019/10/20，横浜情報文化センター）について
 - ・開催されたことの報告があった。参加者をより多く確保するための方策として，会場を固定すること等の意見があった。
- Desert Technology XIV（DTXIV）（2020/9/8～9/11，静岡県賀茂郡松崎町）について
 - ・政府観光局からの助成を申請中であること，役割分担を検討中であることが報告された。
- 2019 年度学会賞受賞候補者推薦
 - ・沙漠研究 29 巻 2 号のおあしす（No. 107）に推薦依頼を再掲することを確認した。
- 「おあしす」（No. 107）の内容確認
 - ・内容を確認した。
- 2020～2022 年度役員選挙
 - ・評議員候補者の推薦についての会告を，学会 HP とおあしすに掲載する。

III. その他

- ・今後の学術大会・シンポジウムの日程と開催地を確認した。
- ・第 143 回理事会：2020 年 1 月 11 日（土）開催。14：00 開始予定。第 144 回理事会および第 33 回評議員会：2020 年 4 月開催。

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

●新入会員

学生会員

福井 智也 (ID : 1138, 秋田大学大学院)

木村 敦

遠藤 邦彦

●退会会員

正会員

成尾 和浩

3年以上会費が未納だった46名の会員（正会員38名、学生会員8名）について、督促後も会費の納入がなかったため、2019年10月末日を以って退会処理をいたしました。

***** 賛助会員・団体会員名簿 *****

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel : 03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060
